

第 1687 回 (7 月 30 日)

農家人口・農業労働力の高齢化

——1995 年農業センサス分析②——

松 久 勉

農家人口の高齢化は日本全世帯の高齢化よりも速いスピードで進んできているが、1995 年農業センサスでは今まで以上のスピードとなっており、高齢化の問題が緊急の問題となっている。この報告では、農家人口および農業労働力の高齢化の現状について、農業センサスより分析するとともに、市町村別データから、高齢化の進んでいる地域における農業の特徴をみるのが目的である。

まず、人口についてみると、日本全世帯の老年人口比率が平均寿命の伸長による高齢者の増加により高まってきているのに対して、農家人口では、年少人口、生産年齢人口が大きく減少するなかで、相対的に高齢化が高まってきていることがわかる。近年では、全世帯も農家も年少人口の減少が目立ち、高齢化をさらに進行させているが、農家の年少人口の減少率の方が高く、農家子弟が急激に減少していることを示している。この要因としては、子供を産む可能性の高い年齢の女性が減少していることに加えて、出生率が急激に低下していることがあげられる。都道府県別にみると、山口、広島、鹿児島、高知、愛媛といった地域で老年人口比率が 30% 前後と非常に高く、東北、北関東、北九州では比較的少なくなっている。また、大都市圏や北陸では、生産年齢人口が比較的多いことがわかった。

農業労働力の高齢化は、農業就業人口や基幹的農業従事者ではきわめて高い割合になるのに対して、農業従事者、機械作業従事者では低く、農業総労働日数ではその中間になるなど指標によって大きく異なっている。これは、総兼業化のなかで他産業との相対関係を示す農業就業人口、基幹的農業従事者では離

職した老年人口により突出して高くなるのに対して、農業を 1 日でも手伝えればカウントされる農業従事者では若手も含まれることが多いためである。このような状況から判断して、この報告では農業総労働日数に占める高齢者の割合でみてみた。この結果、農業労働力と老年人口比率を比較すると、東山、中国、四国、南九州ではどちらも高齢化しているのに対して、東北、北関東、北九州では高齢化があまり進行していない。また、大都市圏や北陸では、農家人口の高齢化は低いものの農業労働力の高齢化は進んでいる。逆に北海道では、労働力の高齢化はきわめて低いものの人口の高齢化は進んでいる。

次に市町村別データから高齢化進展度合いによる類型化をしたい。まず、老年人口比率と農業労働力の高齢者比率の分布をみると、老年人口が狭い範囲にほとんどの市町村がおさまリ、ピークも高いのに対して、労働力では広い範囲に分布し、ピークもはっきりしておらず、市町村のバラツキが大きい。この二つの指標について平均から標準偏差以上離れている市町村（プラス、マイナス）とそれ以内の三つに分けていくと市町村はほぼ六つのグループに分けられる。このうち人口も労働力も高齢化していない市町村では、農業生産が盛んな地域が多く含まれていた。一方、人口も労働力も高齢化している市町村では、夫婦のみの世帯や、単身世帯も多く、75 歳以上人口のうち基幹的農業従事者の占める割合も高く、高齢者がなんとか農業を維持していることがうかがわれる。このような市町村では、耕作放棄率も高く早急な対応が必要となっている。